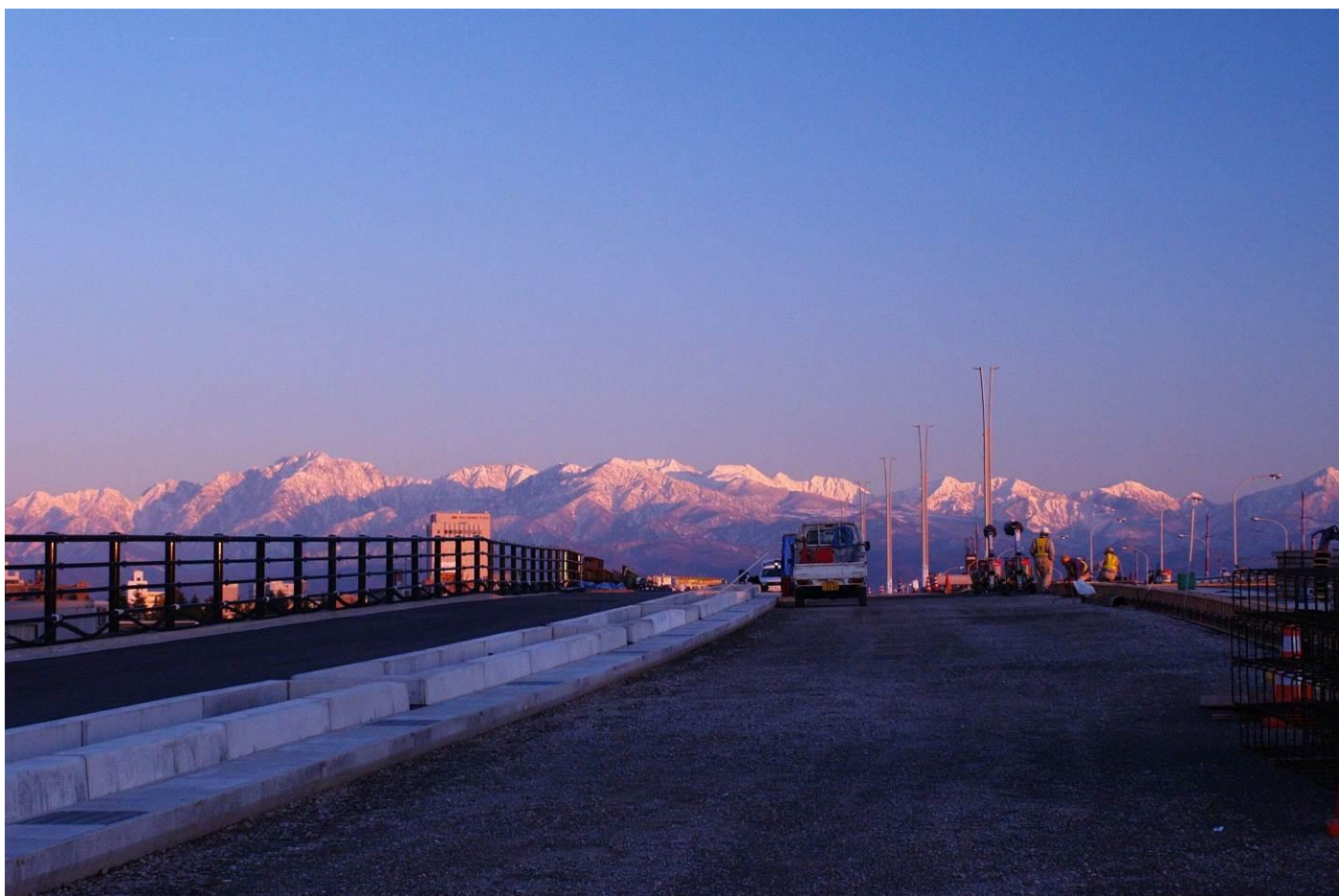


平成 24 年度 第 4 回とやま建設フォトコンテスト 講評

特選 【夕映え】 水野敬雄（撮影場所：富山大橋）



雲一つない快晴、夕映えの立山連邦を背景に、夕陽をあび、もくもくと働いている人を写した素晴らしい作品です。富山大橋を造るために働く人々を撮る機会は沢山あったと思われませんが、最高の場所とシャッターチャンスで撮られています。白銀の美しい立山連邦、富山を宣伝できるコマーシャルにでも使える作品となっています。



働く人部門賞

【送電線工事】 奥井義範

(撮影場所：小矢部市芹川)

見る人がひやひやするインパクトがある作品です。

曇り空の高所で働く4人の人の姿はそれぞれ動きがありベストショットだと思います。工具の落下予防の緑や青の網かご、特に仕事終わりでしょうか、外し傾いたかごの形が良い効果を上げポイントにもなっています。見る人にいろいろ考えさせる物語り性がある秀作です。



物づくり部門賞

【土台びき】 前田利一郎

(撮影場所：富山市羽根)

新築現場を高所から俯瞰して画面構成を考えて撮られました。

コンクリートの全面灰色の中、作業着の色が青、バイオレット、白、黒ありこれが作品に変化を与えています。人々が熱心に働いている動きをうまく写し止めてあり、人の位置がバランスよくそれぞれの仕事具合が分り面白い作品になっています。

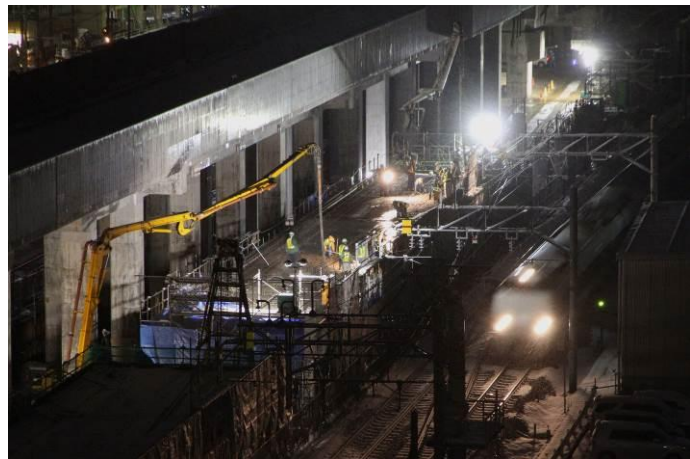


絆部門賞

【みんな寝ている間に】 牛島国男

(撮影場所：高岡市)

住民の生活を守るため早朝働く除雪車、その音が聞こえるような作品です。写っているのは作者のご近所でしょうか、ライトに照らされた降りしきる雪が効果をあげています。雪国の厳しさ、生活感、臨場感が伝わるとても魅力的な作品となっています。



佳作 【最後は人の力なり】 西野信一

(撮影場所：海王丸パーク)

画面一杯の大きいクレーンと新湊大橋の主塔、その下に働く豆粒みたいに小さい人々、その対比がおもしろく人の目をひきます。

【最後は人の力なり】という題名はこの大きいクレーンを動かしているのは人でありまた最後の微調整は人の力であるというメッセージを託す表現となっています。

佳作 【雪の夜に】 高畑 訓 (撮影場所：富山市)

こうこうと照らされたライトの中、仕事に打ち込む人々を斜め構図で写されているのが新鮮で良かったと思います。現在のデジタルカメラは高感度でもノイズの少ない写真がストロボなしで撮れるようになったので、これにより夜の撮影において格段にシャッターチャンスが広がりました。新幹線工事の横を走る JR 電車、主役脇役（新、旧）を考えて、最高のシャッターチャンスで撮られたのには頭がさがります。



佳作 【手作業で】 松村明子

(撮影場所：富山市明輪町)

橋の上から撮られたのでしょうか、なにげなく通りすぎてしまうようなシーンを上手くまとめられました。縦位置で敷石を斜め構図で撮り、また働く人の作業着の色、人の位置も最適で動きのある姿を写し止め、どう撮りたいかという作者の意図が表現できた作品です。

総評

今年は昨年より応募者が増え、年々作品のレベルも向上し、また題材もバラエティに富み、素晴らしい作品が多く集まりました。

フォトコンテストの趣旨が「人が動く、物が動く、地域をうごかす建設産業」がテーマです。題が自由だと賞になるような作品も多々見受けられましたが、部門に合致したものを入賞作品に選考致しました。優劣決めがたく、審査員一同苦慮致しました。

審査委員長 山口裕美 (富山県写真連盟委員長)

第4回とやま建設フォトコンテスト概要

募集時期 平成24年11月～平成25年2月
 主催 (社)富山県建設業協会
 後援 富山県、富山県建産連
 応募点数 95点
 入賞作品 7作品

募集部門

- 働く人部門……建設業で働く人々が、いきいきと誇りを持って物づくりに携わる姿等をとらえた作品
- 物づくり部門…建造物や建設機械などを対象に、建設産業のスケールの大きさや重要性等をとらえた作品。
- 絆部門……除雪活動や防災対策など、建設業と地域のつながり、人々の安心安全を守るために担っている役割・活動をとらえた作品